

「記憶に残る風景」のイメージ分析

尾野 薫¹・堀江 美穂²・山中 英生³

¹正会員 博士(工) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
(〒770-8055 徳島県徳島市南常三島町2-1, E-mail:kaoru_o@ce.tokushima-u.ac.jp)

²非会員 株式会社フジタ建設コンサルタント (〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1,
E-mail: miho-horie@fujitacc.co.jp)

³正会員 博士(工) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
(〒770-8055 徳島県徳島市南常三島町2-1, E-mail: yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)

本研究は、「記憶に残る風景」のイメージを分析することで、個人的で日常的な「私の風景」の実態の一側面を明らかにすることを試みるものである。大学生を対象に「記憶に残っている風景」について絵と説明文で回答する描画・自由記述方式と、想起したイメージの経験時期、経験回数、感情について選択方式により回答を得た。その結果、風景を説明する際の視点、風景を見る頻度、風景と感情の関係についてパターンがあることがわかった。また、人は、反復型のように日々の暮らしの中で触れている風景や、個人の暮らしてきた周辺環境とは異なる環境に対峙した際に風景として記憶に残りやすいこと、自然型の風景に対峙した瞬間の感情とともに記憶されやすい可能性を示唆した。

キーワード: 記憶に残る風景, 日常的な風景, 風景イメージ, 感情, 描画・自由記述調査

1. はじめに

人は、日々の暮らしの中で何気なく風景を記憶している。これは、環境(都市)の中で発生する人や環境との相互作用を知覚・認識することで、経験・記憶を蓄積し、何らかのきっかけによって構造化され、これが積み重なり他と差別化されることで、特定の風景イメージとして個人の中に現れるとされている¹⁾。

特定のイメージを明らかにする研究は数多く行われている。矢部らは、「一般に、校風や教育理念を掲げ、それと同時に郷土の歴史風土を謳い上げるといった共通のスタイルを持っている」校歌に着目し、校歌に謡われた地域景観イメージを明らかにした²⁾。矢部らのように、ある特定の地域を舞台とした表象作品から地域イメージを明らかにしようと試みた研究は、山崎らによる司馬遼太郎『街道をゆく』³⁾、柳川らによる『江戸名所図会』⁴⁾などが挙げられる。また、「なつかしい風景」「原風景」「自然風景」「遊び場」のように、個人的な風景を対象とした研究も数多く行われている⁵⁾。これらの研究では、キーワードによって意味づけすることで、個人的な経験・記憶から特定のイメージを抽出している。

一方で、佐々木は、景観計画や景観まちづくりのような地域景観を議論する際には、特定のイメージとして比較的容易に把握しやすい言語化された景観やシンボルの抽出や保全・創造以上に、「私の風景」のような個人的

で日常的な風景のタネとそれを蓄積する行動に注目することが重要な課題であると指摘している⁶⁾。しかし、「私の風景」という個人的で日常的な風景とは何なのか、個人的で日常的な風景を捉える手法については、未だ確立されているとは言い難いのが実態である。これは、経験・記憶は個人の中に蓄積されるが、他者に伝える時には「好きな風景」や「ある地域の景観」のように構造化または特定のイメージとして語られることが多く、経験・記憶として意識的に語られることが少ないからであると考えられる。また、日々の暮らしの中で何気なく記憶される風景は、思い出そうとしても思い出せなかったり、日々見ているはずなのに記憶として残っていない場合もあり得る。生活史のように日々の暮らしそのものから風景を捉えようとするのも可能ではあるが、膨大な情報量の中で何が風景のタネなのか、それを見極めることは難しい。そのため、個人的で日常的な「私の風景」を明らかにするために、漠然とした経験・記憶に残る風景そのものにアプローチすることが求められる。

平野や白柳らによる一連の研究⁷⁾では、人と環境とのやりとりの中で受ける刺激を分析することで、経験・記憶の発生源を探るとともに、人が何をきっかけとして風景を想起するのかを明らかにしている。また、吉村は「おくのほそ道」を事例として、経験・記憶を意味同士の繋がりや関係によって構造化する動的生成手法を構築し、風景生成プロセスを明らかにした⁸⁾。これらの研

究では、佐々木が指摘する「地域景観イメージとして意識化される以前の地域体験記憶」や「地域景観イメージの生成の場面」を明らかにするための一端を担うものであるが、「私の風景」という個人的で日常的な風景そのものを主対象として研究しているとは言い難い。もし、個人的で日常的な「私の風景」について、漠然とした「記憶に残っている風景」というキーワードで問いかけた場合、人はいつ、どのような経験を、どのような感情とともに風景として想起するのだろうか。「記憶に残っている風景」のイメージを明らかにすることは、日々の暮らしの中で何気なく記憶している個人的で日常的な「私の風景」の実態の一側面を明らかにすることに繋がるのではないだろうか。

以上より、本研究では、「記憶に残る風景」のイメージを分析することで、個人的で日常的な「私の風景」の実態の一側面を明らかにすることを試みることにする。これは、日々の暮らしの中で何気なく記憶している個人的な風景を捉えるための一助となると考える。

2. 調査概要

(1) 調査概要

風景を想起する方法は多数あるが、本研究では「記憶に残っている風景」について、絵と説明文で回答する描画・自由記述方式と、想起したイメージの経験時期、経験回数、感情について選択方式により回答を得ることとした。また、被験者の個人属性として、年齢、性別、居住歴、自身の周辺環境、遊び場について自由記述及び選択方式により回答を得た。居住歴とは、被験者が何歳から何歳まで何県何市に住んでいたかを表すもので、居住年数が最長となるものを被験者の出身地と定義した。なお、本研究では、平成27年国勢調査人口等基本集計結果（総務省統計局）¹⁰を参考に、人口10万人以上を都市部、人口10万人以下を地方部と定義して分類した。

被験者には、徳島大学工学部に所属する学生104名を選定した。記述が不十分なものや、選択式の問いに全て選択していない場合には、分析対象外として除外した。その結果、102件が分析対象となった。なお、出身地について市町村名まで明記していないものが3件あったが、自由記述にて情報が補完できると判断したため、分析対象に加えている。調査概要及び被験者の概要を表-1に、描写・自由記述の調査結果の一例を図-1に示す。

(2) 被験者の周辺環境に関する認識

分析を進めるにあたり、被験者が生まれ育った周辺環境に関する認識について整理する。

表-1 調査概要及び被験者の概要

調査日	2018年11月	
被験者数	102名（男性79名 女性23名）	
出身地	都市部	65名
	地方部	34名
	無記名	3名
質問項目	自由記述	【描画】 あなたの中で、一番記憶に残っている風景を描いてください。文章で補っても構いません。
		【記述】 ・この絵についてその時の出来事や状況などをふまえてできるだけ具体的に説明をしてください。 ・なぜその風景が記憶に残っていますか？その時の感情などをふまえてできるだけ具体的に説明してください。 ・あなたが生まれ育ったところはどんなところですか？
		・この風景はいつのものでしょうか？ ・この風景を見た回数はどのくらいですか？ ・この風景で思い浮かぶ感情の強さを選んでください。 喜び・信頼・驚き・期待・恐れ・悲しみ・嫌悪・怒り ・あなたが生まれ育ったところは自然が豊かだと思いますか？ ・あなたが生まれ育った近所に水辺はありましたか？ ・あなたが生まれ育った近所に山はありましたか？

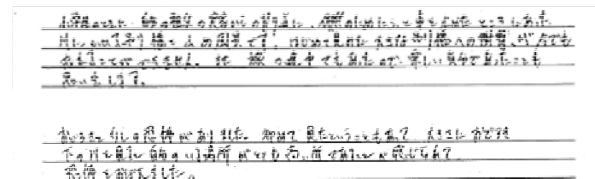
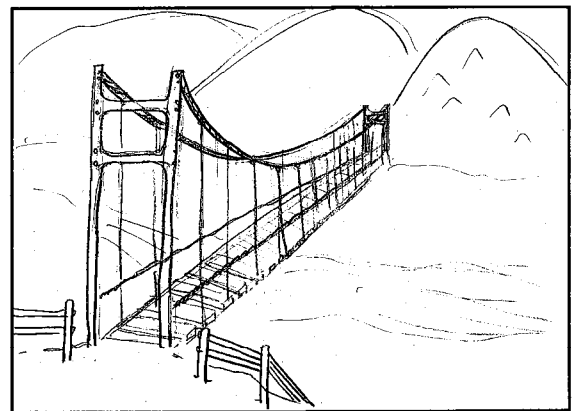


図-1 描写・自由記述の調査結果（一例）

まず、周辺環境の自然の豊かさについては、102名中58名が「とても豊か」「まあまあ豊か」と回答している（図-2）。都市部出身者の中には自由記述による周辺環境の回答として自然に関する要素や単語を記述している場合も多く見られた。よって、都市部出身者のうち周辺環境について自然に関する要素が抽出された被験者を自然都市部出身として再定義し、出身地別に比較することとした（図-3）。その結果、自然都市部及び地方部出身の方が、周辺環境について自然が豊かであると認識していた。

3. 描画・自由記述調査にみる記憶に残る風景イメージの実態把握

本章では、「記憶に残っている風景」に関する描画・自由記述調査結果と被験者の個人属性より、記憶に残る風景の特徴を把握することを目的とする。まず、風景を描画する際の視点に着目することで、人が風景をどのように説明するのか、そのパターンを把握する。次に、描画された風景の要素、記憶された風景の時期、風景を見た回数、風景に対する感情から、記憶された風景イメージの実態を把握する。

(1) 風景描写の視点

描画調査結果より、風景を描画する際、主観的視点で描かれた主観型が86事例、客観的視点で描かれた客観型が16事例であった。客観型には、図-4-1のように「公園の中の芝生の広場」での出来事を場所の説明として俯瞰で描写する俯瞰型が8事例、図-4-2の「6才のころ、初めて野球チームの練習を見に行き、そこで初めて打席に入ったときの風景」のように何らかの場面や風景を1つの風景として描写する合成型が3事例、物単体を描写する等のその他の事例が5事例であった。

中村は風景について「地に足をつけて立つ人間の視点

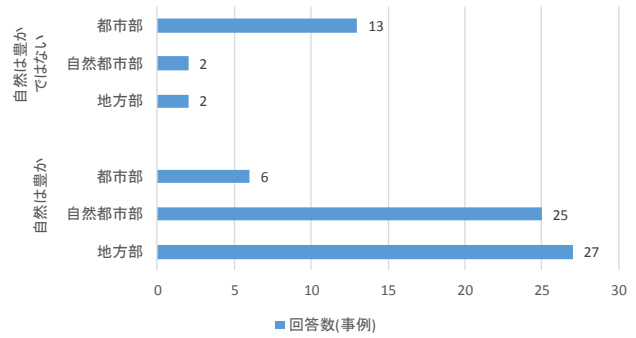


図-2 周辺環境の自然の豊かさの認識

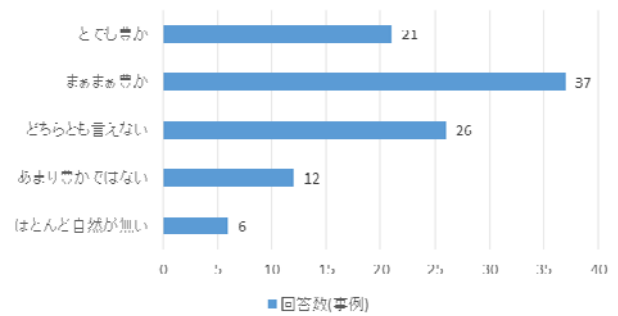


図-3 出身地別にみる周辺環境の自然の豊かさの認識

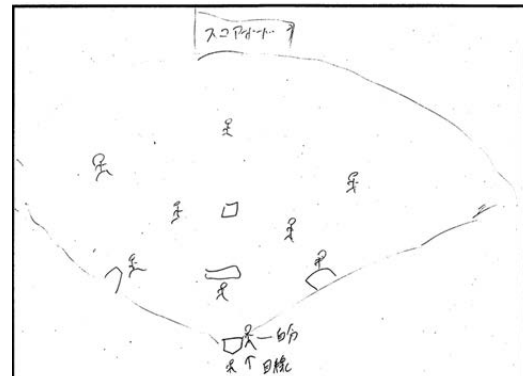


図-4-1 風景描写の視点例 (左: 俯瞰型 右: 合成型)

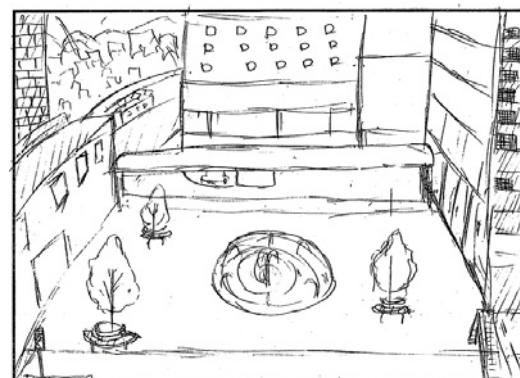


図-4-2 風景描写の要素例 (左: 自然型 右: 都市型)

図-4 風景描写の回答例

から眺めた土地の姿である」と定義している¹¹⁾。この定義に基づくと、主観的視点によって描かれた主観型が風景を描写していると定義することができる。一方で、客観的視点で描かれた俯瞰型については、篠原による景観把握モデル¹²⁾において視点となる体験者が外化された状況である、と考えることができる。合成型は、主観的視点と客観的視点が混合した状態であり、ひとつの風景の中で自己と自己を眺める他者の視点を行き来しながら説明しているとも捉えることができ、これは星野が示す状況景観モデル¹³⁾¹⁴⁾に類似するのではないだろうか。

以上より、記憶に残る風景を説明する際には、中村による風景の定義のように「地に足をつけて立つ人間の視点から眺めた土地の姿」として描かれる主観型と、篠原による景観把握モデルにおいて視点となる体験者が外化された俯瞰型、自己と他者の視点を行き来しながら状況として説明する状況景観モデルに類似する合成型があることを明らかにした。なお、俯瞰型と合成型については事例数が少ないため、詳細に分析することは難しいことから、以後は客観型として考察をすすめることとする。

(2) 描画された風景要素

まず、描画された風景要素について、その傾向を把握する。描画された風景には、自然要素を描いた自然型、都市空間要素を描いた都市型、それらが混合する混合型、場所は不明だが運動をしている様子を描いたものや屋内を描いたその他の4パターンに大別できた(図-4-2)。分類結果を図-5に示す。その結果、混合型が29事例と最も多く、次いで自然型が22事例であった。

出身地別における各パターンの回答率を図-6に示す。その結果、都市型は自然都市部の被験者が多く、自然型は都市部の被験者が多いことがわかる。このことから、被験者は、生まれ育った場所とは異なる環境の場合に風景として記憶に残る傾向にある可能性が高いと考えられる。また、周辺環境に対する意識別に風景の要素を集計した結果を、図-7に示す。この結果から、自然が豊かだと思っている被験者は自然的な絵を描かず、自然が豊かではないと思う被験者は都市的な絵を描かない傾向にあることが明らかになった。

(3) 想起された風景が記憶された時期

風景を見た時期については、大学生でみた風景が28事例と最も多く、次いで高校生・中学生という結果になった(図-8)。また、幼い頃から高校生まで見続けてきた風景と回答した被験者も7事例あった。高校生と大学生の時の風景を描いた人が多い結果となったが、これは高校生や大学生になると進学等によって行動範囲が変化することで、それまでとは異なる風景に接する機会が増え

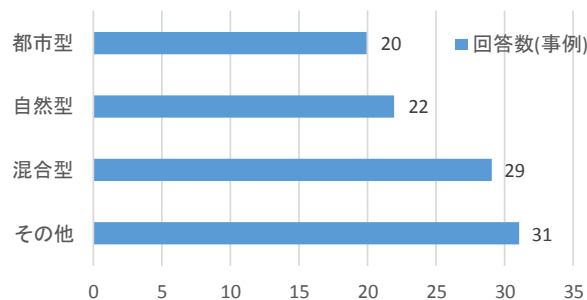


図-5 描画された風景の要素

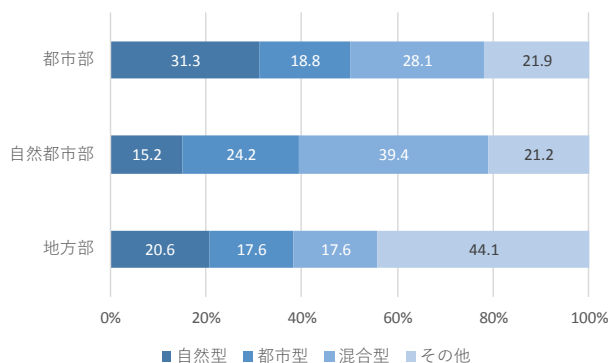


図-6 出身地別にみる描画された風景要素の回答率 (%)

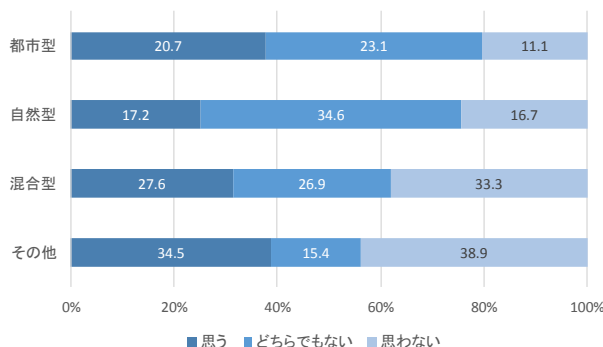


図-7 風景要素のパターン別にみる周辺環境の自然に対する意識の回答率 (%)

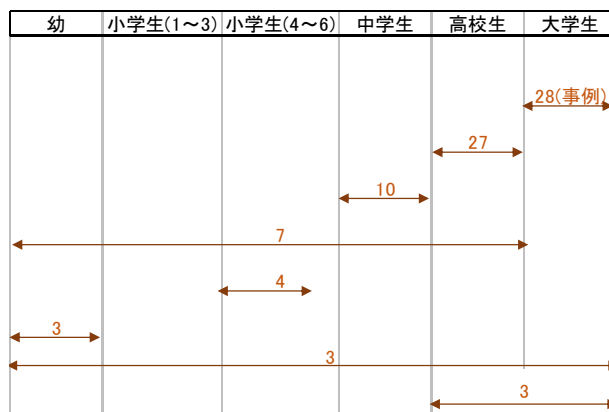


図-8 想起された風景が記憶された時期 (数字は事例数)

たからではないか、と考えられる。また、高校・大学での風景が想起された理由の一つとして、小中学生の頃に比べて近い過去の出来事として想起されやすかったからではないかと考えられる。

以上より、「記憶に残っている風景」を想起する場合には、近い過去を想起する場合と、ある一定期間に見続けてきた風景を想起する場合があることがわかった。

(4) 風景を見た回数

図-9 より、風景を見た回数については、30 回以上見ている場合が 44 事例と最も多く、次いで 1 回しか見えていない場合が 37 事例であった。30 回以上見ている場合は通学路や遊び場部活など日常的に見ている風景が多く、1 回しか見えていない場合には旅行先での風景や非日常的な風景が多かった。また、風景を見た回数が 10 回以上かどうかについて出身地別に回答率を集計した結果、都市部出身者の方が見た回数が少ない風景を記述しやすい傾向にあったが、自然都市部及び地方部出身者については大きな差は見られなかった(図-10)。以上より、記憶される風景は、1 回や数回しか見えていない非日常的な風景のような単一型と、日常的な風景のように繰り返し見ている反復型に大別できるが、出身地による影響はあまりないと考えられる。

(5) 想起された感情

想起された風景に対する感情として、喜び・信頼・驚き・期待・恐れ・悲しみ・嫌悪・怒りという 8 つの感情について、強・中・弱・無の選択回答を得た。これらはポジティブな感情・ネガティブな感情・どちらでもない中立の感情に分けることができ、喜びと信頼はポジティブな感情、驚き・期待はどちらでもない中立の感情、恐れ・悲しみ・嫌悪・怒りはネガティブな感情に分類される。それぞれの感情について、どの強さで感じるかについて、各感情における回答率を算出した(図-11)。その結果、被験者のうち 70%がポジティブ感情を抱いており、そのうち 30%が強い感情を選択していた。一方で、ネガティブ感情は 74%が無しを選択していた。以上より、風景を記憶する際には、ネガティブ感情よりもポジティブ感情をもったときに記憶に残る場合が多い傾向が明らかとなった。

次に、自由記述では、感情の内容やいつ感情を抱くか、について書かれている場合も多く見られたため、記述内における感情に関する単語を抽出し、ポジティブ感情・ネガティブ感情・どちらでもない中立の感情に分類した。言葉の意味として曖昧なものは分類語彙表を用いて分類した¹⁰。その結果、抽出された単語総数は 133 個あり、ポジティブ感情が 100 個と最も多かった(表-2)。ポジ

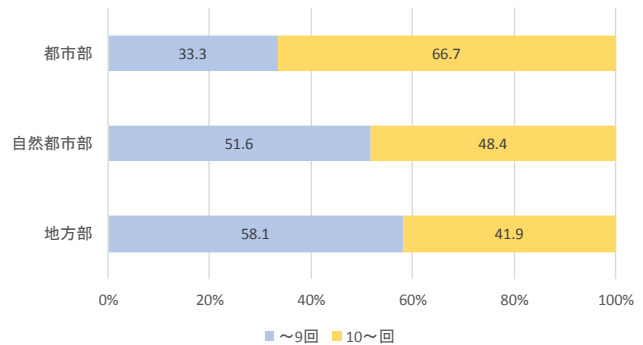
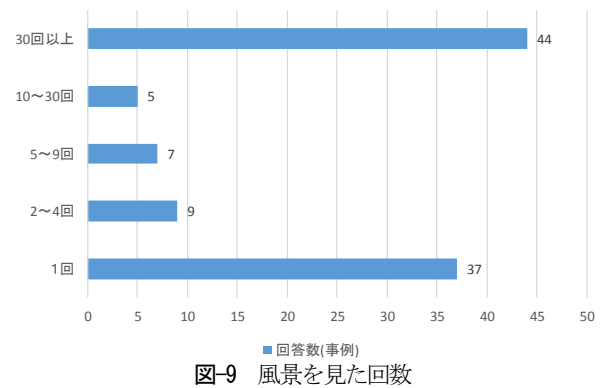


図-10 描画された風景の要素 (数字は事例数)

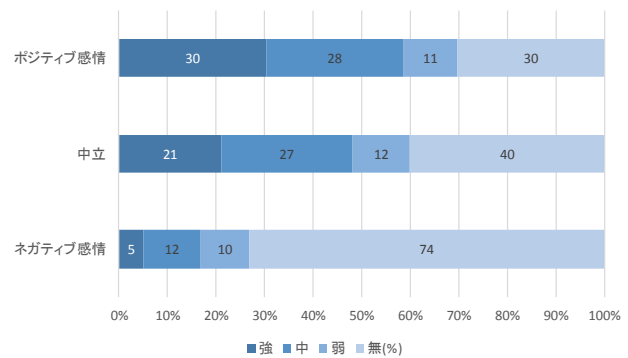


図-11 想起された感情の回答率 (%)

表-2 自由記述内における感情の抽出結果 (個)

	抽出数	事例数
ポジティブ感情 例:感動 きれい 驚き	100	70
ネガティブ感情 例:不安 恐怖 寂しい	26	21
中立 例:不思議 達成感 緊張	7	5
ポジティブ感情×ネガティブ感情		14
感情無し		24

ティブ感情を書いている場合は 70 事例あり、ネガティブ感情を書いている場合は 21 事例、ポジティブ感情とネガティブ感情を書いている場合は 14 事例あった。また、感情を抱くタイミングとしては、A.その風景を見た瞬間、B.その風景を思い出す時、C.その風景を見るたび(複数回)の3種類あることがわかった。

以上より、記憶された風景に対して、人はポジティブな感情を持つ場合が多いこと、感情を抱くタイミングとしては、A.その風景を見た瞬間、B.その風景を思い出す時、C.その風景を見るたび（複数回）の3種類あることが明らかになった。

(6) 記憶に残る風景と感情の関係

3章(4)より、記憶に残る風景は、1回や数回しか見えていない非日常的な風景のような単一型と、日常的な風景のように繰り返し見ている反復型に大別できることが明らかになった。また、3章(5)より、感情を抱くタイミングとしては、A.その風景を見た瞬間、B.その風景を思い出す時、C.その風景を見るたび（複数回）、の3種類あることがわかった。これらを組み合わせることで、記憶に残る風景と感情の関係について、6つの組み合わせがあることがわかった。以下に各パターンの概要を、図-12に各パターンの概念図を示す。

a) 単一型 (5 事例)

1回から数回しか見えていない風景についてのみ説明しており、感情に関する記述はない

例：友達と釣りに来て、堤防を歩いて来て後ろを振り返った時の風景。風が強すぎて釣りをしている人が自分たちしかいなかった。最近の風景。

b) 単一即時型 (41 事例)

1回から数回しか見えていない風景に対して、見た時の感情を回答している

例：はじめて見た大きな吊橋への衝撃が、今でも忘れることができない。

c) 反復型 (20 事例)

繰り返し見ている風景についてのみ説明しており、感情に関する記述はない

例：よく遊んでいた。今もたまに行く。

d) 反復単発型 (3 事例)

繰り返し見ている風景の中で1回から数回経験した時の感情について回答している

例：久しぶりに進路などの考え事をせずに新鮮な気分でのこの風景を目にして、普段の町がきれいに見えた。

e) 反復回顧型 (4 事例)

繰り返し見ている風景に対して、その風景を思い出す時の感情について回答している

例：帰省した時にしか見ることがないので、帰省したときに見ると懐かしい気持ちになる。

f) 反復連続型 (23 事例)

繰り返し見ている風景に対して、見るたびに思い出される感情を回答している

例：とにかく楽しかった印象が強く、高校、大学とみんな散々になった今でも年に何回か集まることもあり、

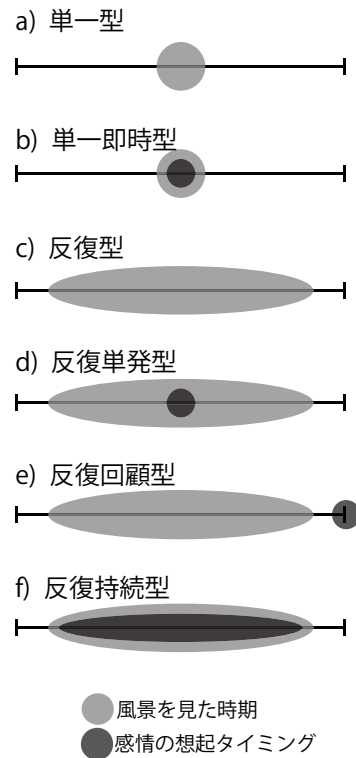


図-12 記憶された風景と感情の関係パターン概念図

とても懐かしい風景

以上より、「記憶に残っている風景」に関する描画・自由記述調査結果と被験者の個人属性から、風景を描画する際の視点に着目することで、人が風景をどのように説明するのか、そのパターンを把握した。次に、描画された風景の要素、記憶に残る風景の時期、風景を見た回数、風景に対する感情から、記憶に残る風景の傾向を把握するとともに、記憶に残る風景の特徴を把握することができた。

4. 「記憶に残る風景」のイメージ分析

3章より「記憶に残る風景」に関する描画・自由記述調査結果と被験者の個人属性から、風景を描画する際の視点に着目することで、人が風景をどのように説明するのか、そのパターンを把握した。その結果、記憶に残る風景を説明する際には、中村による風景の定義のように「地に足をつけて立つ人間の視点から眺めた土地の姿」として描かれる主観型と、篠原による景観把握モデルにおいて視点となる体験者が外化された俯瞰型、自己と他者の視点を行き来しながら状況として説明する状況景観モデルに類似する合成型があることを明らかにした。次に、描画された風景の要素、記憶された風景の時期、風

景を見た回数、風景に対する感情から、記憶に残る風景の傾向を把握した、また、描画された風景の要素、記憶された風景の時期、風景を見た回数、風景に対する感情から、記憶に残る風景の傾向を把握した。その結果、生まれ育った場所とは異なる環境の場合に風景として記憶に残る傾向にある可能性が高いこと、記憶に残る風景には1回や数回しか見ていない非日常的な風景のような単一型と、日常的な風景のように繰り返し見ている反復型に大別できることがわかった。また、風景を記憶に残る際には、ネガティブな感情よりもポジティブな感情をもったときに記憶に残る場合が多い傾向にあること、感情を抱くタイミングとしては、A.その風景を見た瞬間、B.その風景を思い出す時、C.その風景を見るたび（複数回）、の3種類あることを明らかにした。上記の結果より、人が思い出す風景と感情の関係には6パターンあることを明らかにした。ここで、風景と感情のパターン別にみる風景を説明する視点の回答率を算出した。その結果、主観型・客観型ともに単一即時型が最も多く、次いで反復連続型が多いことがわかる（図-13）。このこと

から、「記憶に残っている風景」を問う場合、人は、1回から数回しか見ていない風景に対して見た時の感情とともに記述する場合と、繰り返し見ている風景に対して見るたびに思い出される感情とともに記述するケースが多いと考えられる。

3章(2)より、都市部出身者は自然型の風景を、自然都市部出身者は都市型の風景を描く傾向にあること、自然が豊かだと思っている被験者は自然的な絵を描かず、自然が豊かではないと思う被験者は都市的な絵を描かない傾向にあることが明らかになった。このことから、個人の暮らしてきた周辺環境とは異なる環境に対峙した際に風景として記憶に残りやすい可能性が考えられる。また、風景と感情のパターン別にみる風景要素パターンの描写率を算出した結果、単一即時型や反復単発型、反復回顧型では自然型の風景が多いことがわかる（図-14）。混合型も自然要素を含んでいることから、多くの場合において自然要素を含んだ風景が記憶されており、風景を見た際の感情とともに記憶に残る可能性が高い。

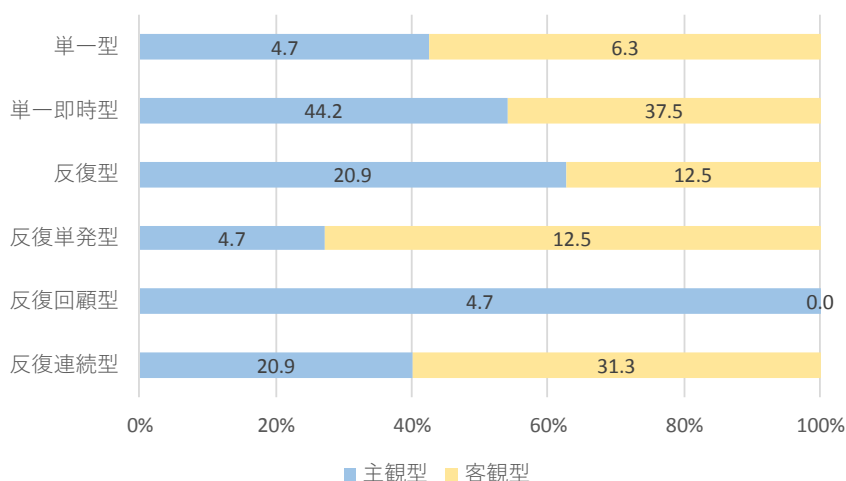


図-13 風景と感情のパターン別にみる風景を説明する視点の回答率 (%)

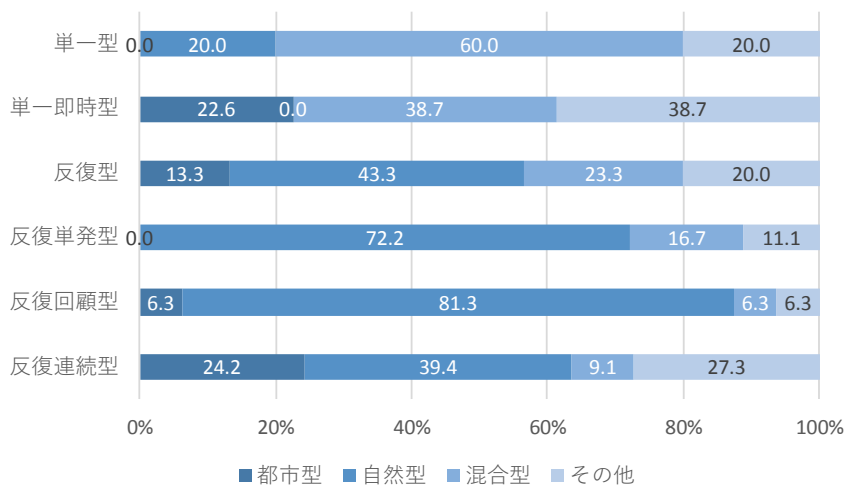


図-14 風景と感情のパターン別にみる風景要素パターンの描写率 (%)

本研究では、「記憶に残る風景」のイメージから、個人的で日常的な「私の風景」の実態の一側面を明らかにすることを試みた。その結果、個人の暮らしてきた周辺環境とは異なる環境に対峙した際に風景として記憶に残りやすいこと、自然型の風景に対峙した瞬間の感情とともに記憶されやすい可能性を示唆することができた。また、反復型のように日々の暮らしの中で触れている風景も抽出されていることから、「記憶に残る風景」というキーワードで生活景や日常の暮らしの風景の一端を明らかにすることも可能であると考え。抽出された風景は、日常的な風景そのものであったり、そういった風景との対比によって記憶に残っている。つまり、個人的で日常的な「私の風景」を明らかにするためには、特定のキーワードでイメージされる風景と対となる風景に隠されているのではないだろうか。個人的で日常的な「私の風景」を明らかにするための手法論の確立が重要である。

5. おわりに

(1) 結論

本研究では、「記憶に残る風景」のイメージから、個人的で日常的な「私の風景」の実態の一側面を明らかにすることを試みた。以下に、結果を示す。

- ・記憶された風景を説明する際には、中村による風景の定義のように「地に足をつけて立つ人間の視点から眺めた土地の姿」として描かれる主観型と、篠原による景観把握モデルにおいて視点となる体験者が外化された俯瞰型、自己と他者の視点を行き来しながら状況として説明する状況景観モデルに類似する合成型があることを明らかにした。

- ・生まれ育った場所とは異なる環境の場合に風景として記憶に残る傾向にある可能性が高いこと、記憶される風景には1回や数回しか見ていない非日常的な風景のような単一型と、日常的な風景のように繰り返し見ている反復型に大別できることがわかった。

- ・風景を記憶する際には、ネガティブな感情よりもポジティブな感情をもったときに記憶に残る場合が多い傾向にあること、感情を抱くタイミングとしては、A その風景を見た瞬間、B その風景を思い出す時、C その風景を見るたび（複数回）、の3種類あることを明らかにした。また、人が思い出す風景と感情の関係には6パターンあることを明らかにした。

- ・人は、反復型のように日々の暮らしの中で触れている風景や、個人の暮らしてきた周辺環境とは異なる環境に対峙した際に風景として記憶に残りやすいこと、自然型の風景に対峙した瞬間の感情とともに記憶されやすい

可能性を示唆することができた。

(2) 今後の展望

今回の調査では、大学1年生を対象として調査を行った。今後は、幅広い世代にも同様の調査を行うことで、「記憶に残っている風景」から個人的で日常的な「私の風景」の一端を捉えることができるかどうか、更に検証していく必要がある。また、日々の暮らしの中で何気なく記憶している個人的な風景を捉えるためには、本研究で使用した「記憶に残っている風景」というキーワード以外で抽出された風景との比較を行うことが必要であると考え。

参考文献

- 1) 佐々木葉：私の風景の日常性と地域景観認識モデル，土木学会景観・デザイン研究講演集，No. 8，pp. 149-155，2012.
- 2) 矢部恒彦，北原理雄，徳山郁芳：小学校校歌に謳われた全国の地域景観イメージに関する研究，日本建築学会計画系論文集，Vol. 472，pp. 111-122，1995.
- 3) 山崎隆之，十代田朗：地域イメージの表現手法に関する研究 - 司馬遼太郎『街道をゆく』における文章構成の分析から，都市計画学会論文集，Vol. 39 No. 3，pp. 97-102，2004.
- 4) 柳川正宏，仲間浩一：複合表象としての都市景観に関する研究 - 江戸名所図会を対象として -，日本都市計画学会学術研究論文集，No. 31，pp. 181-186，1996.
- 5) 例えば，堀繁，栗原正夫，篠原修：体験された風景の構造，造園雑誌Vol. 51，No. 5，pp. 287-292，1988.
- 6) 前掲1)
- 7) 例えば，平野勝也・日高良文：和風店舗のイメージ形成における統辞論的コードの役割，景観・デザイン研究論文集，No. 1，pp. 193-202，2006.
- 8) 例えば，白柳 洋俊，平野 勝也，河田 泰明：検索手がかりによる街並想起の促進及び抑制，土木学会論文集D1（景観・デザイン），Vol. 74 No. 1，pp. 39-50，2018.
- 9) 吉村晶子：「おくのほそ道」における風景の動的生成手法に関する研究，ランドスケープ研究，Vol. 60 No. 5，pp. 567-572，1997.
- 10) 総務省統計局：平成27年国勢調査人口等基本集計結果，総務省統計局「国勢調査」から引用，https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&bunya_1=02&tstat=000001039591&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=000001039601&stat_infid=000031598538&result_back=1
- 11) 中村良夫：風景学入門 18版，中央公論新社，p. 28，1982.
- 12) 篠原修：景観用語辞典，彰国社，pp. 30-31，1998.
- 13) 星野裕司：状況景観モデルの構築にむけた基礎的研究，土木計画学研究・論文集，Vol. 22-III，p. III-1- III-10，2005.
- 14) 星野裕司：親密な未知としての風景 - 生命論的風景論へむけた一試論 -，景観・デザイン研究論文集，No. 7，pp. 37-48，2009.
- 15) 国立国語研究所：分類語彙表 増補改訂版，大日本図書株式会社，2004.